



はいばら  
灰原検出写真(黒い部分)



つきぶた つきみ  
出土した杯蓋と杯身

## てしば かまあと 手石場の窯跡 —宗吉瓦窯を支えた須恵器工人—

市指定史跡『手石場の窯跡』は、三豊市と善通寺市との境にそびえる火上山に所在する「須恵器」を焼いた窯跡です。須恵器とは朝鮮半島から5世紀初頭に伝わってきた焼き物で、斜面をくりぬくなどして作った窯の中で焼きます。窯の中は1000度以上になるため、とても硬く、保水性に優れた焼き物ができます。それまでは、800度程度の「野焼き」という簡易的な方法で焼いていたため、窯の登場は大きな技術的進歩でした。

平成21年度に教育委員会が発掘調査を行いました。窯跡は残念なことに破壊されており、窯の上端にあたる「煙出し」部分がわずかに残る程度でした。この発掘では「灰原」が見つかりました。灰原とは失敗品を捨てたゴミ捨て場ですが、当時の様子を知りたい現代人にとっては多

くの出土品を得ることができる宝の山です。その灰原から100点以上の須恵器のかけらが出土し、それによって窯跡の時期が7世紀末であることがわかりました。

手石場の窯跡が所在する火上山には須恵器を焼いた窯跡が9カ所もあります。当時の香川県ではこれほど窯が密集している場所はありませんので、火上山周辺は一大生産工場であったといえます。ほぼ同時期には、藤原宮に瓦を供給していた「宗吉瓦窯」があります。瓦も窯を構築して焼くので、須恵器を焼く工人が宗吉瓦窯の操業に関与したと考えられます。宗吉瓦窯には、その操業のはじまりなどまだまだ多くの謎がありますが、それらを解決するひとつの鍵が火上山にはまだ眠っているものと思われま

<生涯学習課>

## 今月の市民力

表紙のみごとな竹細工は詫間町の浦川守さんの作品。浦川さんが竹細工づくりを始めたのは約4年前。友人から頂いたイノシシの竹細工を見て興味を覚え『まんのう竹細工』の会に入って作り方を学びました。現在は、ボランティアで、地元の小学校や公民館などで子どもを対象に竹細工の指導をしています。浦川さんは「何でも買ったら手に入る時代。子どもたちに、作って完成したときの喜びや感動を感じてもらいたい」との思いで、<sup>ほうぼう</sup>方々をまわっています。これからも、ものを作る喜びを、どんどん広げていってください。

